

「ふくおか」から発信する、市民公益活動の情報誌

「明日を担う市民」への思いをこめて

ASUMIN NOTE

[あすみんノート]

2020 Winter

No. 22

Support for people
in need

Special Issue

生活困窮者支援

Voice

奥田知志(認定NPO法人抱樞)

KNOWLEDGE

Q&A 福岡市の2団体に聞きました

Asumin Information

Asumin Recommend

寄付ボックス

Headline

「助けて」と言える国へ 人と社会をつなぐ

Organization Introduction

登録団体紹介:登録番号746~753

生活困窮者支援

Support
for people
in need

個人ではどうにもできない困難があります。そのような状況に陥った時には、その人を社会全体で支える仕組みが必要です。

それは、必ずしも行政の手に任せられるものではありません。困難を抱えた個人の実情にあわせ、一般化せずに支援する。それは、NPOやボランティアといった市民主体の活動の特性が生かせるシーンです。まだまだ回復のメドが立たないコロナ禍では、経済的な問題にとどまらず、人と人とのつながりを保つことも課題です。人間関係の希薄化は、当事者自身が困窮状態にあることに気づくことを遅らせ、より一層困難な状況に追い込まれてしまいます。

今回のSpecial Issueは「生活困窮者支援」。社会の狭間に置かれて困窮する、弱い立場に置かれた人々への支援について考えます。

生活保護受給者数

214

万人

(厚生労働省)

ひとり親世帯数

142

万人

(H28 厚労省)

完全失業者数

210

万人

(R2 総務省)

単独世帯

1842

万世帯

(H27 国勢調査)

多重債務者

133

万人

(首相官邸)

引きこもり

61

万人

(H30 内閣府)

高齢者の一人暮らし

6559

千世帯

(H28 国勢調査)

全国のホームレス者数

4555

人

(H31 厚生労働省)

VOICE

ボイス

認定NPO法人 抱樸

奥田 知志さん Tomoshi Okuda

北九州ホームレス支援機構から、「抱樸」に名称を変更されました。その経緯や由来を教えてください。

「抱樸(ほうぼく)」は3つ目の名前です。最初は、北九州越冬実行委員会でした。ホームレスの人たちにとって一番きつい冬を越すために、1988年の12月から活動を始めました。そして、2000年に「一日も早い解散を目指す」と宣言し、NPO法人化しました。その時の名前がホームレス支援機構です。当時の小倉には、500人を越えるホームレスの方がいました。亡くなる方も多く、年間20人を越える時もありました。こんな活動が必要ない社会を創ることを目標に、私たちが掲げたミッションは、「ひとりの路上死も出さない」「ひとりでも多く、一日でも早く、路上からの脱出を」「ホームレスを生まない社会を創造する」です。孤立が広が

る時代に「ひとりにしない」こと、「断らない」こと、そして「つながり続ける」ことが私たちの基本姿勢となりました。しかし、この国は平成の時代になって、それまでに培ったものがほぼ崩れてしまいました。特に就労形態は、世界の流れとも同調し、新自由主義の方向へと進んでいます。残念ですが、格差も貧困も常態化した社会では私たちが掲げている課題解決は難しい。今は、「何がしたいのか、どういう社会にしたいのか」をもう一度考えなおすことが大事だと思います。実は、「ホームレス支援」と書かれた手紙は勘弁してほしいという方もいます。そんな手紙が届いたからといって、その人がホームレスかどうかはわからないのですが、社会が持っている差別意識は強烈で、そう思ってしまうでしょう。活動開始から25年目の2013年、私達は、「解散できない」ことを悟り、「解散しない」ことを決意し、名称を「抱樸」と改めました。ボランティアの方たちも交えて、およそ一年にわたり話し合いをした上で、私が大学生の頃に出会ったこの老子の言葉を使おうとなりました。山から切り出された原木・荒木(樸)をそのまま抱き止めることを意

味するこの名は、「自己責任」など、「断る理由」が横行する日本社会への「対抗文化」を示しています。私たちが目指すのは「抱樸する社会、断る理由を断念した社会」です。路上生活者の支援から始まった活動は、困窮し傷ついた家族、泣くことさえできない子どもたち、さらに孤立する人々、仕事を失った人、生きづらさを抱える人、罪を犯した人、障害のある人、高齢の方々、住宅確保困難者支援に広がりました。現在実施している事業は、27となっています。

団体設立の趣旨にもある「断らない」とは、どういうことですか？

「断らない」の対極には「自己責任論」があります。現代の社会でベースになっているのは、自己責任です。これは、「あなたの問題でしょ」と、社会が引き受けなくていい理由、「断る」理由を作っていました。菅総理の「まずは自分で頑張る。自分がダメになったら周りが、周りがダメになったら最後に国が助ける」という発言も、この

れます。例えば、最近でこそ障害の窓口は統合化していますが、もともとは、知的、発達、身体、精神に分かれていました。障害の相談でも系統が違えば支援の対象にならないのが社会です。これでは、総合的な相談はできませんよね。三つ目は、公的な支援制度の手前で相談を受けるところがないこと。これは従来、家族や地域が担っていた分野です。公の手前の部分が機能していた時代は、たとえば「今日、何食べようか」などの何気ない相談も家族の誰かが聞いてくれましたが、単身化が進みその部分が抜け落ちてしまいました。これら三つの現実に対抗するために宣言したのが、どんな相談でも受ける「断らない」ということだったのです。



抱樸で定期的に行われている炊き出しの風景
思いやりがこもった手紙が添えられたお弁当

そして、私たちの「断らない」には、もう一つの意味があります。それは、「断らない」相談の大きな支障となるのが、従来の相談支援が「課題解決型」だと言うことです。課題解決型の考え方が持たない人が「すべて断らない」となると、「すべてを解決する」

必要がありますが、それはできません。そんなこともあり、私たちが目指しているのが「伴走型支援」です。従来の問題解決型の支援に加え、たとえ解決できなくても「つながり続ける」ことを大事にしています。「伴走」が社会の前提となることで、誰でも「助けて」と言うことができます。抱樸が目指すのは「助けて」と言え

る社会」です。今では、養成講座も始まり全国に1000人ほどの伴走型支援士がいます。来春から日本福祉大学の授業にもなり、日本伴走型支援協会も立ち上げる予定です。伴走型支援は、解決しなくても、繋がってさえいたらいい、問題を抱えていても、孤立しない限り、それ以上のことにはならないという考え方です。私は、国の審議会でもこんなことを言うので大論争です(笑)。「断らない」なんて言ったら、相談支援が全部パーンアウトする。どうするんだ!」と言われますが、相談を通した支援には、課題解決型と伴走型の二つがあり、一方が機能しなくてももう一方が機能する、これが「断らない相談」だと考えています。国が来年からはじめ「地域共生社会」の構想の中にも、つながりを重視した伴走型支援が盛り込まれています。

コロナ禍における市民活動について、どのようにお考えですか？

ここ30年の日本は、猛烈に突っ走ってきた時代ですが、思ったような結果も出ず、心身ともに疲れていたところに、急ブレーキがかかりました。私は教会の牧師もしていますが、聖書には少し詩的な表現で「光は闇の中に輝く、闇は光には勝てない」と書かれています。普通感覚だと、コロナの中で「いつになったらあの頃に戻れるか」、「暗いトンネルはいつか終わるんだ」と考えてしまう。ですが、聖書では「闇の中にすでに光がある」と、闇の中にこそ本当の光の意味を知ることになると励ましています。コロナで苦しい今だ



いまや生活必需品となったマスクの配布を行っている

からこそ、見えること、考えられることがあると。そう思うと、とても悲しい出来事ばかりですが、いくつかの光もあると思います。その第一は、「世界中の人が当事者になった」ことです。これまでの危機には、自然災害のように助ける人、助けられる人という構図がありました。しかしコロナは、世界中の人が、うつす可能性もうつされる可能性もあります。世界のグローバル化は、経済や情報で表現されてきましたが、実は人間の交流もそこにあったんです。人から人にしか感染しないものが、たった3ヶ月で世界中に広がった事実は、いくら国と国に分断があっても、人間は繋がっていると教えてくれます。なのに、世界のリーダーたちは自国第一主義の「〇〇ファースト」を言います。みんなで生き残るしかない状況なのに、「自分だけ」というエゴイスティックな社会が見えてしまいました。ちゃんと協力しあえるか、全滅するか。人類はコロナウイルスから見られています。そして2つ目は「人間とは何か」です。コロナは、人は一人では生きていけないと教えてくれました。感染防止のため、「Stay Home」が叫ばれましたが、目の前に食べ物がない人には「コロナだから1ヶ月後に会いましょう」とは言えません。家にこもることで命が助かるというのは嘘です。我々が「Stay Home」できたのは、「Out Home」で働いていた人がいたからです。いつもより増えたゴミの収集も、電気や水道、スーパーで働く人がいたおかげでなんとかなった。そう言う事実も受け入れなければなりません。



亡くなられた方一人一人の名前を読み上げる年に一度の追悼式

3つ目は「いのちが大事」だということ。日本人は昔から勤勉で真面目だと評価されてきました。おかげで日本は豊かにもなりましたが、一方では「モーレツ社員」に代表されるように、命よりも仕事が大変という価値観も持っていました。これは「働くのは幸せに生きるため」という諸外国の人から見ると考えられないことです。「感染したら死んでしまうかも」という現実、日本人から働くことを奪いました。すると、「命よりも仕事」という価値観さえも揺らぎはじめたのではないかと思います。世界で通じる日本ならではの言葉として、「HIKIKOMORI(引きこもり)」や「KAROSHI(過労死)」があるように、社会的な孤立をすべて家族に押し付け、自己責任でやれというのは日本だけです。諸外国では、自分の家ではなく社会の中に引きこもるのだそうです。うちのNPOは家族に押し付けるのはもう無理だと、30年前から「家族機能の社会化」を進めています。赤の他人がいかに社会的な機能を補ってくれるのか、私たちが本気で取り組まなければならない課題です。

初歩的な質問ですが、人は「一人」と死んでしまうものですか？

それを考えるには、ロンリネスとアイソレーションの違いを理解すべきです。日本語では解釈が統一されていないのでわかりにくいんですが、「孤独=ロンリネス」というのは、人間の本質的な部分です。我々は、誰かと共に生きるため

に「一人」というものを引き受けなければなりません。ですから、人間にとって、一人になることと共に生きることは両義的なもので、どちらがどちらをも担保していません。ですから、人間としての必要概念だとも思います。一方で、「孤立=アイソレーション」の方は、本人の選択を超えた概念なので、結果論として孤立しているとか排除されている状況を指します。ですから、こちらには大きな問題があると思います。それはあなたの責任だと社会がいうこと、つまり自己責任の論理が、誰かと関わらないという選択を導き出しています。私達は、制度の枠に縛られることなく「ひとりとのお会い」から必要な仕組みを作りました。「制度に囚われない活動」は、「人を属性で見ない」という在り方を生み出した。そもそも「ホームレスという人」はいません。例えば山田さん、田中さんという名前のある個人との出会いからすべてが始まり、私達は「出会った責任」を考え続けます。活動は自立支援に留まらず、「出会いから看取りまで」、「人生そのものに伴走する」というスタイルへと変化を遂げています。

認定NPO法人 抱樸

「(旧)北九州ホームレス支援機構」として2000年に法人化。近年はホームレス支援に限らず、高齢者、障害のある方の支援も行なっている。Youtubeやクラウドファンディングを積極的に活用し、広く支援を集めている。

<https://www.houboku.net>

Q & A

生活困窮者支援活動に取り組む 福岡市の2団体に聞きました

<p>団体名</p> <p>質問</p>	<p>特定非営利活動法人 ホームレス支援 「福岡おにぎりの会」</p>	<p>特定非営利活動法人 エンパワメント福岡</p>
<p>Q1. どのような方を支援されていますか？</p>	<p>福岡市内のホームレスや生活に困窮されている方、また当会を通して自立をされた方も支援しています。ほとんどが男性の方で(男性95% 女性5パーセント)、年齢は20~80代と幅広いです。失業、借金、離婚及び家庭崩壊、依存症などが原因で、家がない、職がない、生活のためのお金がないことと共に、築いていた家庭、職場、地域のさずなが途絶えた状態となったとお聞きしています。</p>	<p>DVやセクハラなど暴力被害女性、言葉や制度の壁に直面する移住女性、ひとり親家庭など経済的・社会的に厳しい環境にある女性と子どもを、年齢にかかわらず支援しています。DVなどで住まいを失った女性と子どものためのシェルターを運営し、自立支援や相談も行っています。移住女性のための通訳支援や日本語教室も行っています。本年度は「スペース虹」という子どもの居場所を設立しました。</p>
<p>Q2. 社会的孤立が生まれる原因は、何だと思えますか？</p>	<p>格差社会、非正規雇用、貧困の連鎖、自己責任を求める社会など原因は多岐に渡ります。トラブルを避け人との関わりを持たない人や、型にはまった価値観で社会的弱者に関心を持とうとしない人が増えているのも原因です。そのため困窮や悩みを打ち明けたり、助けを求めたりすることが出来ない人も増えています。</p>	<p>経済的、政治的、社会的に、労働、政治、家族などあらゆる場において、男性を優位に、女性を劣位においてきたジェンダーの不平等が背景にあります。DVが原因で離婚した女性は労働条件の悪い非正規労働によって厳しい貧困状況に追いやられています。移住女性は、言葉の問題や在留資格制度のために、支援に繋がりにくくなっています。</p>
<p>Q3. ①変化した点 ②変わらない点 ③変化が必要だと考えている点を教えてください。</p>	<p>福岡市の自立のための施策で、ホームレス者は減少し、居宅者が増えました。当会でお世話した居宅者にも高齢化が進み、孤独死が重要な課題となり、見回りに取り組んでいるところです。夜回りでのホームレスとのつながりや居宅者とのつながりを大切にしている点は、以前から変わっていません。今後も社会でのホームレスへの偏見を無くすため、貧困問題に取り組む団体や行政との協力関係を大切にしていきたいと思えます。</p>	<p>Me too 運動など、当事者が声を上げ制度も変わろうとしています。貧困が社会問題となり、子ども食堂や学習支援など、民間の活動が活発になりました。しかし、暴力や貧困の当事者への「自己責任」という厳しい見方、根深い男性優位のジェンダー意識による会社や政治の意思決定の男女格差は、以前のままです。男性が主となる世帯主義から、一人一人が尊重される個人単位の制度へ変わることで、政策決定の場へのクオータ制の導入が必要です。</p>
<p>Q4. コロナ禍において人とのつながりに変化を感じますか？活動内容の変化はありましたか？</p>	<p>メディアによって活動が知られるようになり、困窮者問題に関心を持つ人が増えていると感じます。手作りマスクや特別給付金を元にしたと思われる寄付など、ボランティアや支援者が増えました。対象者と互いを思い合う関係性が増したように思います。 活動や取り組むべき課題に変化はありませんが、炊き出しの回数を増やしました。冬場の毎週の炊き出しは変わらず行う予定です。相談者も増えたので、スタッフを増やしています。</p>	<p>高齢者のための活動や子ども食堂など、様々なイベントや活動が制限され、人のつながりは、大変厳しくなっています。すべての活動を停止するのではなく、リスクと対策を考えたウイズコロナの判断が必要です。当団体の活動については、コロナによるDV相談が開設され、相談活動、居場所開設など広がった面があります。</p>

あすみんのオススメ

Asumin Recommend

「寄付ボックス」

市民公益活動を応援する方法の1つに「寄付」があります。寄付の方法は、直接お金を渡す以外にも、使用済み切手などのいわゆる不用品を集めることで寄付できる方法があります。不用品が再生品となった際の収益や、集まった重量に合わせて付与されるポイントが寄付されるなど、それぞれのプログラムごとに工夫されています。あすみん館内に「寄付ボックス」を設置し、寄付につながる不用品を集めています。使い捨てコンタクトのケースや歯ブラシなど、「これも寄付につながるの!？」というものもあります。来館の際にはぜひご覧ください。



ホンダナ!

Hondana!

あすみんの図書コーナーに所蔵している書籍をご紹介します!

「助けて」と言える国へ 人と社会をつなぐ



ISBN:978-4-08-720703-3
定価:946円(860円+税)
形態:新書判
ページ数:254

脳科学者の茂木健一郎氏から、神学的考え方への質問があることで、奥田さんの生活困窮者支援の活動への向き合い方が、わかりやすい言葉で語られています。市民活動に関わる多くの方が共感できる、活動を続ける後押しとなる一冊です。「支援する/される」の関係を越えたつながりを模索する方や団体にとっても、オルタナティブなあり方を考えるヒントとなります。

【著者】奥田知志 茂木健一郎
【編集】集英社新書 【発行年】2013年

登録団体紹介

Organization Introduction

あすみに登録された団体を紹介します。(登録番号746~753)

- M Studio
- 一般社団法人アンサンブル
- 朝倉復興支援あさくら杉おきあがりこぼし実行委員会
- 福岡明友会
- テクテクハニカム
- 特定非常利活動法人福岡ジョブサポート
- ふくおか教養塾
- 子供と家族の未来を守るプロジェクト

登録有効期限のお知らせ

令和2年3月31日までに登録された団体は、2020年9月30日をもって、本年度の登録有効期限が終了いたしました。未登録の場合は、貸し室の利用やホームページの利用ができません。手続きがお済みでない団体は、お早めに手続きをお願いいたします。また、更新対象については利用カードの裏面をご確認ください。

必要な書類など、詳しくは窓口へお問い合わせください

利用団体登録について

check!

あすみんでは、施設やサービスを利用される団体に関して、利用団体登録をお願いしています。福岡市内で活動し、市民公益活動に取り組む団体(主にNPOやボランティア団体)が対象となります。登録に必要な書類は、下記の(1)~(6)になります。ご記入のうえ、窓口までお持ちください。また、(7)、(8)は登録の際にご持参ください。登録申請時には、書類の確認・面談を行います。

登録に必要な書類

- (1)福岡市NPO・ボランティア交流センター施設利用許可申請書(団体)
- (2)団体の運営に関する規則(定款、規約、会則等)
- (3)活動計画書
- (4)これまでの活動実績がわかる資料
- (5)役員名簿
- (6)自己チェックシート
- (7)印鑑
- (8)申請者本人確認書類(運転免許証、健康保険証など)

福岡市NPO・ボランティア交流センター あすみん

【住所】〒810-0021 福岡市中央区今泉1-19-22 天神クラス4F
【TEL】092-724-4801 【FAX】092-724-4901
【MAIL】info@fnvc.jp 【HP】https://www.fnvc.jp
【開館時間】月~土曜 10:00~22:00 日・祝日 10:00~18:00
【休館日】第4水曜日、年末年始 12月29日~翌1月3日
【facebook】https://www.facebook.com/asunoshimin/



HP



facebook



お越しの際は公共交通機関をご利用ください

- 地下鉄をご利用の場合 ●七隈線「天神南」駅 1番出口から徒歩6分
- バスをご利用の場合 ●西鉄バス「今泉1丁目」徒歩1分
- 電車をご利用の場合 ●西鉄福岡(天神)駅 南口から徒歩5分

